



# 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部  
〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町7-5-2  
神戸大学大学院医学研究科  
外科学講座食道胃腸外科学分野  
TEL: 078-382-5925 FAX: 078-382-5939  
発行者：掛地吉弘  
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長  
小寺澤康文（神戸大学食道胃腸外科）  
印刷：株式会社dig TEL: 03-3551-3060  
年2回発行 1995年4月創刊

## 万国外科学会の思い出

—若手外科医の国際舞台での登竜門—

大分大学消化器・小児外科学講座 教授  
**猪股 雅史**



外科医が最初に経験する国際交流の舞台の多くは、国際学会での発表だと思います。その数ある国際舞台の中でも、100年以上の歴史と伝統を有する万国外科学会（ISS/SIC）には、恩師の北野正剛先生が日本支部長を務められていたこともあり、2011年以降、毎回、教室の若手外科医と共に参加してきました。万国外科学会の思い出は、素晴らしい国際的な学术交流や若手外科医育成はもちろんですが、震災、テロ、パンデミックなど、自然や社会の課題と立ち向かう国際的協調・団結など、とても一言では語りつくせない印象に残る出来事を経験してきました。

印象に残るのは、2011年の東日本大震災後の大変な時期に、渡邊昌彦会長（北里大学）が横浜開催にて各国の協力のもと成功に導かれ、日本の復興を世界に発信されたことです。2015年のバンコクでは、テロ爆破事件後の厳戒態勢の中での開催となり、また2022年のウイーンでは、パンデミックの感染対策の中での開催であり、若手医局員が現地でのコロナ検査陽性のために1週間、帰国が延期になったことなど、平時ではできない貴重な経験をしました。

そのような中で、2011年横浜開催の余剰金を用いて、若手育成のためのYokohama Awardを設立されたことは、日本支部のとても素晴らしい取り組みだと感じており、これまで多くの教室員が、このグラントをいただき、国際学会の舞台に立てたことは、この学会が若手外科医のグローバル感覚を磨く登竜門にふさわしい役割だと感じています。とりわけ、昨年のクアラルンプール開催では、大分大学の研修医にKitajima Prize（悪性疾患）、大学院生にISDS Grassi Prize（良性疾患）を選出いただけたことを、とても光栄に感じています（写真1）。さらに、学会3日目のJapan Nightでは、

Kitajima Prize を獲得した2年目研修医が、そのステージ上で入局宣言してくれたことは、生涯忘れられない思い出となりました（写真2）。また日本人3人目としてGrey Turner Lectureでの北川雄光先生の圧巻の講演に、国際学会における日本のプレゼンスを発信する重要な場であることもあらためて感じました。

万国外科学会の素晴らしい伝統と運営に際して、本会に長く貢献されている諸先輩方に、心より敬意を表するとともに、新支部長の掛地吉弘先生のリーダーシップのもと、本学会が「若手外科医の国際舞台での登竜門」として、さらに発展を遂げていくことを心より祈念いたします。



写真1 Kitajima Prize および Grassi Prize を受賞した大学院生を囲んで



写真2 Japan Night のステージ上で外科入局宣言をした研修医とともに

## BSI の現状のご報告

岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 教授  
**校園 忠彦**



万国外科学会日本支部の先生方におかれましては、平素より多大なるご指導とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。昨年のクアラルンプールでのISW2024では、日本からも多くの先生方が参加され、国際的な外科医交流の場において日本の存在感を示すことができましたことを、大変嬉しく思っております。

私はBreast Surgery International (BSI) の理事として、日本の乳腺外科分野の国際的な発信に努めております。2025年6月にはBSI主催のJournal Clubをウェブ形式で開催し、Baylor College of Medicineの

Alastair Thompson 教授を講師に迎え、個別化治療における外科の役割について議論を深めました。日本からも複数の共同研究者や若手医師が参加し、直接国際的な議論に触れる貴重な機会となりました。地理的制約を超えたこのような形での知見共有は、今後のグローバルな学術活動の柱になると確信しています。

今回のISW2026ではBSIとしても最新の乳癌トピックを取り上げるべく準備を進めており、JCOGをはじめとする日本発の臨床試験の成果を紹介する予定です。近年、日本における乳腺外科領域の臨床研究は質・量ともに国際的に評価されており、特に外科治療に関するエビデンスは世界的な治療指針にも影響を与えるようになってきています。BSIという国際的なネットワークを活用し、これらの成果をさらに世界へ発信してまいります。

一方で、日本の乳腺外科医におけるBSI会員数は依然として少ないのが現状です。BSIは外科医個人の視野を広げ、国際共同研究や教育活動の機会を得る貴重なプラットフォームです。ぜひ本稿をご覧の先生方におかれましては、所属教室やご施設内でBSIへの入会をご紹介いただき、日本の若手外科医の育成と国際貢献の後押しをいただけたら幸いです。



## ISW2024 参加報告と 若手外科医への期待

東北大学大学院医学系研究科  
消化器外科学分野 教授

亀井 尚



このたび、万国外科学会日本支部ニュースレターへの寄稿の機会をいただきました。

昨年クアラルンプールにて開催された ISW2024 に、日本外科代謝栄養学会理事長を務めている関係で IASMEN（International Association for Surgical Metabolism and Nutrition）から参加いたしました。今回の IASMEN はアジア外科代謝栄養学会 ASSMN のメンバーを中心に企画され、周術期栄養管理やサルコペニア対策、代謝に関する最新の知見が数多く共有され、学術的にも非常に充実した、実り多き会議となりました。特に、低侵襲手術の普及や高齢患者の増加に伴う栄養介入の個別化戦略は、今後の外科医療においてますます重要な課題であり、各国からの多彩なアプローチは非常に勉強になりましたし、アジア各国の熱意に感化されたセッション

ンでもありました。私も日本での臨床的な取り組みを紹介する機会をいただき、活発な意見交換ができたことは大変嬉しく思います。

マレーシアは初めての訪問でしたが、会場となったクアラルンプールという都市そのものも非常に印象深く、予想以上に都会的でインフラも整備されており、街全体から感じられる活気と熱気に圧倒されました。学会の合間にイスラム文化に触れておこうとブルーモスクを訪ねました。が、その途中で Grab の運転手が「プレイ、プレイ」と言って突然車を止めてどこかに行ってしまう、ほどなくして戻ってきた際には何事かと驚きましたが、聞けば祈りの時間とのことでした。信仰が日常生活の中に自然に根付いている様子を見て、異文化理解の重要性を改めて認識いたしました。国際学会は、こうした文化的な学びも含めて視野を大きく広げる絶好の機会です。若手外科医の皆さんには、ぜひ臆することなく積極的に国際学会に参加していただきたいと心より願っています。国際舞台で得られる知識や経験は今後のキャリアを豊かに支えてくれる大きな財産になると思います。さらに各国の知り合いを増やして人脈を築ければ何より喜ばしいことです。

次回の ISW は 2026 年 4 月 19 日から 23 日にかけてメキシコシティで開催される予定です。第 126 回日本外科学会総会の直前という非常にタイトなスケジュールとなっておりますが、それでも多くの若手外科医の皆さんが参加され、再び実りある国際交流が行われることを、心から期待しております。

## 万国外科学会に参加させて いただいて

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター外科  
診療医長／輸血部診療部長兼任 教授

川瀬 和美



私は 2005 年に日本外科学会ワーキンググループのメンバーとして参加させていただいたのをきっかけに、これまで女性外科医が外科医としてしっかりと働き、かつ充実した自身の生活も送れるにはどうしたらよいか、どのように現状を改善できるか、を念頭に活動してきました。2009 年に日本女性外科医会（Japan Association of Women Surgeons: JAWS）が設立されました。2011 年に横浜で渡邊昌彦先生が主催された第 44 回の学会で、JAWS とアメリカ女性外科医会（Association of Women Surgeons: AWS）とのジョイントセッションの機会を頂きました。私が万国外科学会に初めて参加させていただいたのがこの時でした。アメリカと香港の先生にお声がけし、アンケート調査を行いました。実はこの時の発表の瞬間はあまりよくおぼえていませんが、この発表を機に 2013 年の万国外科学会では主催のフィンランドの先生方にもご参加いただき、調査を発表しました。その際は当時 7 歳だった娘も参加し、発表の間はアメリカの先生が会場の後ろの席で付き添って下さいました。セッション終了後には大勢の女性外科医たちと共に記念撮影を行いました（写真 1）。



写真 1



写真 2



写真 3

2015 年、2019 年にも発表、2024 年は 2 つのセッションで発表させていただきました。発表を行うことやセッション発表者の内容やディスカッションも非常に刺激になります。また万国外科学会に際し、JAWS と AWS の共催の朝食会が開かれ、開催国の女性外科医も含め交流を深めていますが、毎回そのパワーに圧倒され、鼓舞されます（写真 2；2015 年バンコクでの女性外科医オプショナルツアー、写真 3；2024 年 JAWS&AWS 朝食会）。

外の世界に目を向けることで自分の立ち位置が認識でき、今後の方向性もわかってくることがあります。私自身は万国外科学会に参加することでモチベーションを与えていただきました。若手の先生方にはいろいろな経験を重ねていただき、更に前進していただければと思います。今後の万国外科学会日本支部の皆様の更なるご発展をお祈りいたします。



## 第 51 回万国外科学会に 参加して

慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科  
准教授

川久保 博文



2024 年 8 月 25 日から 8 月 29 日にかけて、マレーシアの首都クアラルンプールにある KLCC コンベンションセンターにて第 51 回万国外科学会総会 (International Surgical Week; ISW 2024) が開催され、参加致しました。KLCC コンベンションセンターは KLCC 駅に直結している大規模な国際会議場であり、クアラルンプールの象徴ともいえるペトロナスツインタワーや KLCC 公園、ショッピングセンター、多くのレストランが隣接する素晴らしい環境に位置していました。8 月のマレーシアということで、とてつもない猛暑を覚悟しておりましたが、実際には東京の方がはるかに暑く、クアラルンプールは比較的穏やかで過ごしやすい気候でした。会場の周辺には超高層ビルや、タワーマンション、ホテルが立ち並び、まさに近代都市の様相を呈していました。物価も他の欧米諸国やアジア諸国と比べてリーズナブルであり、食事大変美味しく、近年日本人の移住先として人気が高いことも納得できました。

今回、私は初めての万国外科学会に参加致しました。予算や日程の制約から、上部消化管外科を専門とする私は、これまで米国消化器病週間 (DDW)、欧州消化器病週間 (UEGW)、国際食道学会 (ISDE)、国際胃癌学会 (IGCC)、欧州内視鏡外科学会 (EAES) などを優先して参加してまいりました。そのため、比較的遠方で開催され、かつ領域横断的な性格をもつ万国外科学会 (ISW) には参加する機会がこれまでありませんでした。しかし、今回は教室の北川雄光教授が ISW2024 において Grey Turner Lecture で講演されることもあり、ぜひ参加したいと思い、演題登録を経て参加する



ことができました。北川教授の講演タイトルは「The Battle Against Esophageal Cancer: The Role of Surgical Oncologist in the Era of Multidisciplinary Cancer Treatment」であり、聴衆の一人として拝聴し、日本人として、また慶應外科の一員として大変誇らしく、深く感動いたしました。

学会初日の夜は Kuala Lumpur Night、3 日目には Japan Night が開催され、多くの日本および海外の著名な外科医と交流する機会を得ました。非常に貴重で刺激的な経験となりました。学術的な面においては、日本の国内学会でも十分に学ぶことができますが、ISW は国際交流をする絶好の機会であり、特に若手外科医の皆さんにぜひ参加をお勧めいたします。次回の万国外科学会 (ISW2026) は 2026 年 4 月 19 日から 23 日にかけてメキシコシティで開催されます。メキシコまでは経由地にもよりますが、15 - 20 時間を要し、時差も 15 時間と大きく、かなり参加のハードルが高いですが、私自身はぜひ参加したいと考えております。なお、万国外科学会日本支部では 40 歳以下の若手外科医を対象に「Yokohama Award」として、1 人あたり 10 万円の参加支援を行っております。普段の日本の学会では得がたい、他領域の日本や海外の著名な外科医との交流をぜひ楽しんでいただければと思います。



What science can do

AstraZeneca

免疫細胞への腫瘍の抑制シグナルを阻害することで  
抗腫瘍免疫を増強する抗体

アストラゼネカ株式会社

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB  
www.astrazeneca.co.jp/

まだないくすりを  
創るしごと。

明日は変えられる。

astellas  
アステラス製薬株式会社  
www.astellas.com/jp/



## 第 57 回 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2025 年 4 月 12 日（土曜日）午前 7：00 ～ 7：30

ウエスティンホテル仙台 25F 花・雪  
現地開催

出席者：井本滋、海野倫明、江口英利、掛地吉弘、菊池寛利、北川雄光、  
北野正剛、小林道也、今野弘之、枝園忠彦、竹内裕也、竹政伊知郎、  
野村幸世、長谷川潔、原口義座、比企直樹、福島亮治、松原久裕、  
村尾佳則、若林剛、和田則仁（敬称略、五十音順、計 21 名）  
（事務局：小寺澤康文、石井綾香）

### 1 開会挨拶

小寺澤事務局長より開会挨拶。

### 2 支部長挨拶

掛地日本支部長よりご挨拶、学会最終日の早朝にも関わらずご参集いただいたことへの御礼がされた。

### 3 ISS/SIC 理事会報告 掛地日本支部長：

- ① 世界地図をベースとして、泉、ギリシャ文字、太陽を含んだ新しいロゴに変更となった。
- ② 長年 ISS の Secretary General を務められた Prof. Ken Boffard が交代となった。また、事務局や財務の一部にも交代があった。
- ③ 2024 年の決算について、収入 \$ 1,234,070、支出 \$ 1,167,774 で、およそ \$ 60,000 の黒字ではあったが、現在の収入源の大半は World Journal of Surgery が占めているため、さらなる収入源の確保が課題である。
- ④ ISW2026 が 2026/4/19-23 メキシコシティで開催される。参加費やプログラムの草案が完成した。また、ISW2028 の開催地が南アフリカのケープタウンに決定した。
- ⑤ IAES が ISW2024 を最後に ISS から脱退した。一方で学生を主体とした学会の新規参加もある。世界の外科を支援していくことを目標に掲げており、今後、新たな開催地も候補に挙がっていく可能性がある。

### 4 International Surgical Week 2026 について 小寺澤事務局長：

2026 年 4 月 19 日から 23 日までメキシコシティにて ISW 2026 が開催される予定である。

例年どおり Yokohama Award や Japan Night を予定しているが、同時期に日本外科学会定期学術集会も開催されるため、日程を調節する。

### 5 支部活動報告 小寺澤事務局長：

ニュースレターの発行、支部総会の開催、International Surgical Week 2024 について報告があった。

### 6 決算・予算案について 小寺澤事務局長：

2024 年度の決算、および 2025 年度の予算案についての報告があった。今後、物価高にともない支出が増加することが予想されるため、ニュースレターを PDF にするなど経費削減に努めていく。また、2025 年度より監事は宮内昭先生から馬場秀夫先生へ交代となった。

### 7 Collective Member Societies より

#### ■ BSI 枝園忠彦先生：

2025 年 6 月 7 日に開催される第 2 回 BSI Virtual Journal Club についての参加を呼びかけられた。

“Active Monitoring With or Without Endocrine Therapy for Low-Risk Ductal Carcinoma In Situ The COMET Randomized Clinical Trial” JAMA. 2025;18;333:972-980.

Author：Prof. Alastair M. Thompson、Chairperson：Prof. Susanna Kauhanen、Panelists：Prof. Tadahiko Shien, Prof. Michael Douek

#### ■ IATSIC 溝端康光先生（小寺澤事務局長代読）：

DSTC の DATC のコースを 2024 年 11 月 25 日 - 27 日まで川崎にて開催された。受講生は、DSTC が 19 名で、DATC が 4 名で、韓国や台湾からの受講生もいた。講師として、ISS の Prof. Ken Boffard、IATSIC の Prof. Elmin Steyn らを招聘した。本年 12 月にも同じ内容で DSTC/DATC を開催する予定である。

#### ■ ISDS 吉田昌先生（小寺澤事務局長代読）：

2025 年 2 月に開催された ISDS のミーティングについて報告があった。いくつかの団体に ISDS に参加して頂くように proposal を送っている。今後、social media などを利用して、会員を増やしていく。また Robot surgery や、Immunotherapy の Workshop や Symposium を開催し、企業からの Sponsorship を働きかけて行く。ISW2026 のプログラムについて ISDS は、90 分の 14 セッション、60 分の 3 セッションを予定している。

#### ■ IASMEN 小谷先生（小寺澤事務局長代読）：

ISW2024 では、IASMEN は 7 つの original sessions と 5 つの joint sessions を開催した。IASMEN の初めての試みとして ASSMN との合同セッションが行われたが、アジア各国の外科代謝栄養学会のリーダーが登壇し、大変盛り上がるセッションとなった。この影響もあり、アジアからの参加者が多かった。IASMEN の会員数は他の Integrated society と比べ少ないが、ISW2024 以降は増加傾向にある。今後も、学会をより魅力的なものとし、SNS の利活用もさらに活性化し引き続き会員数増強に向けて努めていく。

### 8 次回日程について 小寺澤事務局長：

令和 7 年 11 月 22 日（土）に開催予定である。開催形式は未定である。

### 9 閉会挨拶

次回の日本支部総会、ならびに ISW2026 への参加の呼びかけがなされ、掛地日本支部長の閉会の挨拶で締めくくられた。

以上



良質。均質。ツムラ品質。

**ツムラ**

生薬には、  
個性がある。

株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/>  
資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。  
医療関係者の皆様 tel.0120-329-970  
患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930  
受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く）

2021年4月制作

# International Surgical Week (ISW) 2026

2026 年 4 月 19 日 - 4 月 23 日 Mexico City

## のご案内

2026 年 4 月 19 日（日）－ 4 月 23 日（木）の 5 日間、メキシコのメキシコシティにおきまして、International Surgical Week・ISW2026 が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

### ～メキシコシティ～

メキシコシティは、メキシコ合衆国の首都で、歴史・文化・美食が融合する北アメリカ屈指の世界都市です。

この都市には豊かな歴史と文化が息づいており、世界遺産の宝庫です。アメリカ大陸最大のキリスト教構造物であるメトロポリタン大聖堂やソカロ広場、国立宮殿といった見どころがたくさんあります。

また、タコス、モレソース、メスカルなどの本場のメキシコ料理を堪能することもできます。

カラフルな街並みと、近代的な高層ビルが調和しており、これらが徒歩圏内で楽しめることも、メキシコシティの魅力です。



## 主な日程・会場（予定）

4月19日(日) Japan Night（日本人参加者懇親会）

4月20日(月) オープニングセレモニー、Mexico City Night（全体懇親会）

4月21日(火) ISDS, IATSIC, BSI, IASSS, IASMEN 各学会夕食会

会場：Camino Real Polanco Mexico

日本支部のウェブサイトにも随時情報を掲載します。http://wss-jp.org/

## Yokohama Award

5 名程度 Award 一人当たり 10 万円

ISS/SIC 日本支部は、日本からの若手外科医の ISW の参加を支援しています。

応募条件は、応募時点で 40 歳以下の日本人外科医で、

- ① ISW2026 メキシコシティに Oral の演題を提出、かつ
- ② ISS/SIC 日本支部会員からの推薦があること、です。



メキシコ料理（イメージ）